

令和4年度第1回東京都へき地医療対策協議会

「へき地におけるデジタル技術を活用した医療提供体制の充実について」の主な御意見

（*発言順不同）

○ 協議会での取組

- ・ デジタル技術を活用して、多摩、山間、島しょ地域の医療環境をいかに充実させていくかというような方向性を持って、現在の状況、必要性等から課題を抽出しながら取り組んでいく。【古賀会長】
- ・ 遠隔医療の推進によって、本土の病院に通院する場合の島民の経済的・精神的な負担が少しでも解消できればとは思いう。【三辻委員】

○ 地域医療連携ネットワーク

- ・ 東京都総合医療ネットワークとあって、電子カルテを地域と結んでいる。双方向性・単方向性のいずれもあり便利。島しょ地域に関しても、導入も考えたほうが良いのではないかと。【汲田委員】
- ・ 長崎の離島の事例で電子カルテを基幹病院と幾つかの診療所で電子カルテを共有している。診療所での診療内容は、例えば救急車で運ばれたとしても、基幹病院に全く普通に情報共有されているということで大変便利。【宮崎委員】
- ・ セキュリティーの問題もありなかなか簡単にできることではないとは思いますが、ぜひこれ進めてほしい。【宮崎委員】
- ・ 島の診療所の電子カルテの統一化をしていただけるとありがたい。【田尻委員】
- ・ 電子カルテの導入・切替は、それぞれの診療所で仕事として負担は大きくなるので、長期的な計画が必要になると思うが、もし、本当にそういったことで統一化ができたなら大変有用だと思うので、継続して検討していただけるとありがたい。【亀崎委員】
- ・ 西多摩医療圏に関しては、メーカーが違うカルテの相互参照が可能になるネットワーク（西多摩ネット）の構築が進んでいる。【井上委員】
- ・ 電子カルテの導入には、入札の制度等の事情もあるため、メーカーが違って情報共有ができるネットワークにすることが必要。【木村委員】

○ D t o D

- ・ 専門的なコンサルテーションとしての遠隔医療は大変有効。患者さんと専門医が直接つながって完了というよりは、診療支援の一環としての位置づけの方が大変有効。【石川副会長】
- ・ （画像電送システムについて）支援する側（広尾病院）のご苦勞がおありだったというのが、へき地でも感じていたので、支援する側の負担（マンパワー等）も同時に整備していく必要がある。【亀崎委員】

○ D t o P w i t h D

- ・ 医療関係者間の良好なネットワークは非常に大事。医療関係者間のコミュニケーションが取れないと結構細かい齟齬が起きやすい。遠隔医療のスキルが一定程度必要で、お互いの理解やトレーニングが必要だと思う。【井上委員】
- ・ インフラが進んでも人と人とのコミュニケーションが基本。対面でもコミュニケーションエラーというのが起きやすいがオンラインではなおさら。そういった教育が重要。【石田委員】
- ・ 悪天候時に専門医が来られないことが結構ある。例えば皮膚科のような、患者さんの見た目である程度判断できるような科であれば、D t o P w i t h Dが大変有効ではないかと思う。【木村委員】
- ・ いわゆる一般の大きな病院の先生方が、診療の片手間で遠隔診療に参加するというのは、現実的には難しく、準備が必要と考える。【井上委員】

○ D t o P（オンライン診療）

〔へき地外からのD t o P〕

- ・ コロナを経験して、オンライン診療はかなり進んだと思っている。診療科によっては活用できるものもあるのかなと感じる。【岩崎委員】
- ・ 小笠原のような超遠隔離島の場合、本土の専門医にできるだけ早めに診察してほしいが、患者さんの移動する負担がとて大きいということがしばしばある。やはりその辺についてもシステムとして整備していれば有意義である。【亀崎委員】
- ・ 目の前で診察するときと比べて、希薄な診療にならないように留意が必要。【内藤委員】
- ・ 対面でやるということも非常に大切。【谷口委員】
- ・ 島外の先生とオンライン診療をやっている島民もいると聞いている。【土谷委員】

〔へき地内でのD t o P〕

- ・ D t o Pの遠隔医療をある限界集落で導入してみようと思いきや、遠隔医療の説明会を試みたが、住民の方々から言われたのは、先生、やめてくれと、そんなの導入しないでくれと、私たちはお医者さんと直接会って話がしたいんだと。それも一つだし、里に下りて病院に行くときに里の友達と会えるんだと、病院へ行って、みんなと会いたい、あと買物がしたいと、だから、先生、そんなのやめてくれと言われて、導入を断念した経緯がある。【井上委員】
- ・ 直接診てもらいたいという患者さんの希望は大変大きい。【石川副会長】
- ・ 島の診療所が島内の患者等に対しオンライン診療をやってくれと言われても、普段の外来診療自体への影響が大きくなっていくことが考えられるため、島しょ診療所でのオンライン診療の検討は、まだ早急な考えかと思う。【土谷委員】

○ **5G（実証実験）**

- ・ 非常にきれいな動画が大変スムーズに流れ、実際にその場で見ているのと同じような感じであった。診療や検査の時に、実際にどこの場所をどういうふうに操作したり、あるいは処置をしたりすればよいかといったようなことをサポートするには有用なツールになると感じた。【田尻委員】
- ・ エコーを使つての5Gの実証で、かなりリアルに見られるというようなことであれば、救急診療や専門診療にかなり役立つと期待している。【古賀会長】
- ・ 5G自体が島しょ各町村でどこまで開設運用できるのかが、今のところ不安。今後の遠隔医療としてきれいな映像を都内の病院とオンラインで共有し連携を図ることは必要かと思う。【土谷委員】

○ **コメディカルによる遠隔医療支援**

- ・ （web会議システムを活用した）退院支援などでは、看護やケースワーカーだけではなく、薬剤部門や栄養科等が少しずつ関わるようになっている。【田尻委員】

○ **ニーズ調査**

- ・ 現場の声を今伺ってニーズというのが非常に多様であると認識した。個別の地域特性を酌み取れるようなニーズ調査ができると非常に有効である。【渡部委員】